

授業科目名： 国際地域学研究基礎			担当教員名： 袴田茂樹、黒田俊郎、Ka Po Ng
選択必修： 必修	単位数： 2	セメスター： 1 前 1 Spring	開講言語： 日本語

○授業の到達目標及びテーマ

国際地域学で取り扱う領域を平和と安全、世界と地域、そして価値規範や文化などを取り扱う多文化世界などを中心として、世界全体、そして東アジアを例に挙げながら、具体的に解説、分析をする。受講する学生は事前に主要文献を読了したうえで授業に参加し、自由な討議を踏まえたのち、各自の研究関心に関連させながらターム・ペーパーを作成する。

○授業の概要

それぞれの分野、事象に精通した教授陣が講義を担当することによって受講生の関心を喚起し、研究につなげていくことを考える。（オムニバス方式／全 15 回）

（袴田茂樹／日本語 7 回）

（世界と地域、文化、価値規範）

世界の地域認識の一般的基礎として、幾つかの文化圏に分けた世界各地の文化や価値観の違いを理解する。単なる知識として異文化や他の価値観を知るだけでなく、それらが各地域で有するリアリティを理解することを目的にする。より具体的な研究事例としては、担当者が専門とするロシア、中央ユーラシア、独立国家 CIS の歴史、文化、価値観などを掘り下げる。

（黒田俊郎／日本語 5 回）

（平和と安全、グローバル・イシュー）

数あるグローバル・イシューの中から平和と安全に関連するトピックスに限定して、安全保障研究、平和研究の最新業績を踏まえつつ、具体的事例研究も交えながら考察する。

（Ka Po Ng／英語 2 回）

（対立と協調、東アジアの地域国際関係論）

本授業では、安全保障、アイデンティティ、国家間協調などの国際関係に関する問題をアジアにおける対外政策に留意しながら検討する。安全保障については、伝統的な安全保障、また非伝統的な安全保障の問題の両方を取り上げる。アイデンティティに関する授業では、なぜアイデンティティが紛争の大きな原因になるのかについて議論し、国家間協調については紛争が絶えない世界における協調のダイナミクスを考察する。最終週では、こうした問題がアジアにおける地域政治の中でどのように立ち現われているのかについて議論する。

○授業の方法

- 1) 英語で行うクラスと日本語で行うクラスを置くため、履修についてはオリエンテーション（履修ガイダンス）で指導する。
- 2) 受講生は、（下に示す）基本文献を読み、また授業での討議に積極的に参加することを求められる。予習に必要とされるリーディング（論文）は、事前に配布される。

3) 授業は、毎回、簡単なレジュメが配られ、それに基づいて、当日のテーマについての講義が行われ、そのあとディスカッションが行われる。

4) 受講生は、6000から8000字（日本語）の期末ペーパーを書かなければならない。

○授業計画

第1回：科目紹介（全員）

第2回～第8回（袴田茂樹）

第2回 サミュエル P. ハンティントン『文明の衝突』の再検討

世界を幾つかの文明圏に分けて、国際紛争や国際テロを「文明の衝突」として説明する見解に対しては、これまで賛否両論が出ている。本講義ではまず、「文明の衝突」論をめぐる様々な見解を比較検討し考察する。

第3回 アジアの文化と価値規範

アジアには多様な文化が混在しているが、本講義では中国、インド、日本の文化と価値観を比較検討する。儒教、仏教の影響や日本人の宗教・文化意識についても考察する

第4回 欧米の文化と価値規範

近代・現代の欧米の宗教、文化、価値観などについて、基本的な特徴を理解し、それが現代世界で有する意義を考察する。

第5回 イスラム圏の文化と価値観

近年は政治的に「アラブの春」やトルコ、シリア問題、イスラム過激派の活動などが注目されたが、それとの関連でイスラム世界の文化と価値観を理解する。

第6回 ロシアにおける文化と価値観

ロシアにおける文化と価値観を、歴史上および現代の具体的な諸事象と関連して考察する。

第7回 中央ユーラシア（ロシア以外の CIS 諸国）における文化と価値観

ロシア以外の独立国家共同体（CIS 諸国：中央アジア、コーカサス、ウクライナその他）における文化と価値観を、歴史上および現代の具体的な諸事件と関連して考察する。

第8回 前半の授業のまとめ

地域認識のあり方について、第7回までの授業を総括する。また、地域研究、国際認識のあり方について、総合的に考察する。

第9回～第13回（黒田俊郎）

第9回：現代世界における「安全」とは何か。

現代世界における「安全」とは何か。この問題を安全保障研究の歴史を回顧し、近年注目を浴びつつある批判的安全保障研究(Critical Security Studies)の意義を問いながら、検討する。

必読資料：

Ole Wæver and Barry Buzan, “After the Return to Theory: The Past, Present, and Future of Security Studies,” in Alan Collins, ed., *Contemporary Security Studies*, 3rd edition, Oxford University Press, 2013.

Columba Peoples and Nick Vaughan-Williams, *Critical Security Studies: An Introduction*, Routledge, 2010, “Introduction: Mapping critical security studies, and travelling without maps.”

第 10 回：安全保障問題への地域的アプローチ①

グローバルな安全保障問題に対する地域的アプローチ(Regional Security Complex Theory: RSCT)の概要を解説する。

必読資料：

Barry Buzan and Ole Wæver, *Regions and Powers: The Structure of International Security*, Cambridge University Press, 2003, Chap.1 “Theories and histories about the structure of contemporary international security,” & Chap.3 “Security complexes: a theory of regional security.”

第 11 回：安全保障問題への地域的アプローチ②

第 7 週で検討した RSCT に基づく事例研究としてヨーロッパを取り上げ、その理論的意義について検討する。

必読資料：

Barry Buzan and Ole Wæver, *Regions and Powers: The Structure of International Security*, Cambridge University Press, 2003, Chap.11 “EU-Europe: The European Union and its ‘near abroad,’” & Chap.13 “The post-Soviet space: a regional security complex around Russia.”

第 12 回：批判的安全保障研究①

批判的安全保障研究の諸理論のうち、安全保障問題化(Securitization)の理論を取り上げ、その概要を解説する。

必読資料：

Columba Peoples and Nick Vaughan-Williams, *Critical Security Studies: An Introduction*, Routledge, 2010, Chap.5 “Securitization theory.”

Ralf Emmers, “Securitization,” in Alan Collins, ed., *Contemporary Security Studies*, 3rd edition, Oxford University Press, 2013.

第 13 回：批判的安全保障研究②

前回で検討した安全保障問題化の理論を環境と境界をめぐる安全保障の文脈で検討し、その理論的意義について検討する。

必読資料：

Columba Peoples and Nick Vaughan-Williams, *Critical Security Studies: An Introduction*, Routledge, 2010, Chap.6 “Environmental security” & Chap.9 “Migration and border security.”

第 14 回～第 15 回 (Ka Po Ng : Lecturing in English)

第 14 回 : 地域の安全保障のケーススタディ : 台湾海峡危機

Week 14: Case Study of Regional Security: Taiwan Strait Crises

This week studies why some security issues remain geographically contained and regionalized by examining the case of the Taiwan Strait Crises, especially the one in 1995-1996.

必読資料 :

Scobell, Andrew. 2000. 'Show of Force: Chinese Soldiers, Statesmen, and the 1995-1996 Taiwan Strait Crisis.' *Political Science Quarterly* 115 (2): 227-246.

Brands, H. W., Jr. 1988. 'Testing Massive Retaliation: Credibility and Crisis Management in the Taiwan Strait.' *International Security* 12 (4): 124-151.

第 15 回 : 国際安全保障のケーススタディ : ソマリア沖の海賊問題

Week 15: Case Study of Global Security: Piracy off Somalia

This week studies why some security issues go global by examining the case of piracy off Somalia and international responses.

必読資料 :

Chalk, Peter. 2009. 'Maritime Piracy: Reasons, Dangers and Solutions.' February, RAND. 'Report of the Secretary-General on the situation with respect to piracy and armed robbery at sea off the coast of Somalia.' 12 October 2015, S/2015/776, United Nations Security Council.

○テキスト

各週に提示 (授業計画を参照)

○参考書・参考資料等

各週に提示 (授業計画を参照)

○学生に対する評価

- 1) クラス討論への貢献: 30%
- 2) 期末ペーパー (6000～8000 字、日本語) : 70% (日本語クラス)